

第1回地域意見交換会

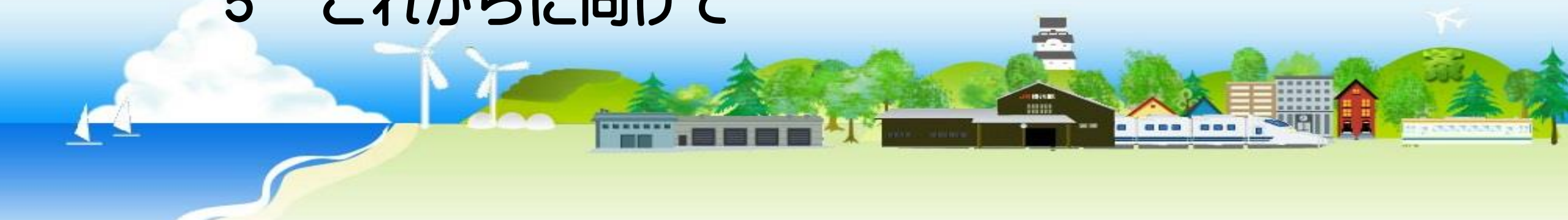
掛川市が目指す小中一貫教育 について

掛川市教育委員会
教育政策室



内容

- 1 掛川市の教育
- 2 小中一貫教育が求められる背景
- 3 掛川市が目指す小中一貫教育
～掛川市小中一貫教育推進基本方針～
- 4 全国・県内の状況
- 5 これからに向けて



1 掛川市の教育

教育大綱かけがわ



今、掛川市は、
子どもたちの未来のため
に何をすべきか、何ができるの
か、という視点に立って、教育
大綱を定めます。

目指す姿の設定



子どもたちの未来のために

子どもは未来の宝です。

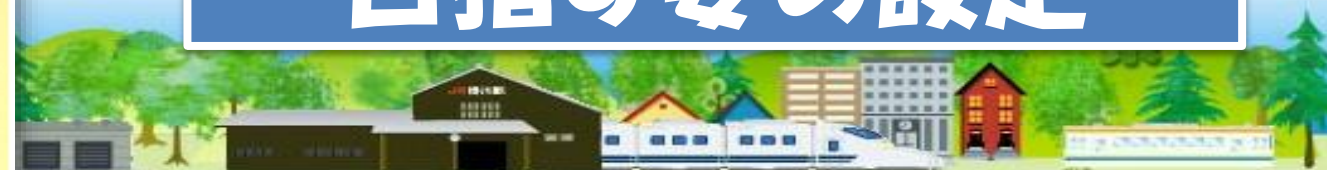
子どもたちが「希望」を持ち、夢や目標に向かって自分を磨くことができ、誇りと愛着を抱きながら、地域でも、グローバルにも活躍する人へと成長することを願っています。

子どもは、家族や地域の大人から多くのことを学びながら成長します。

大人には、掛川市民がこれまで培ってきた「報徳」や「生涯学習」、「協働のまちづくり」の理念を活かし、子どもたちの未来のためにできることを問いかけ合いながら、生涯学び続け、子どもたちの目標となるような、充実した人生を送って欲しいと願っています。

今、掛川市は、子どもたちの未来のために何をすべきか、何ができるのか、という視点にたって、教育大綱を定めます。

平成28年3月



1 掛川市の教育

目指す姿

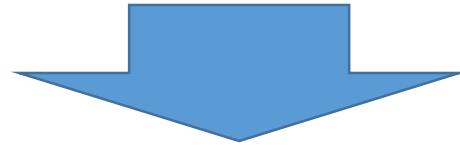


- ◇変化の激しい社会で生き抜く力を備えているひと
- ◇多様な人々を結び、地域でもグローバルにも活躍できるひと
- ◇高い目標を持ち、新たな価値の創造にチャレンジするひと
- ◇自立する心を持ち、他者の考えや痛みに共感できるひと
- ◇豊かな心や健やかな体に高めていくひと

2 小中一貫教育が求められる背景

少子高齢化、グローバル化の進展など、これからの**社会は今以上に急激な変化**が予想される。

子どもたちが周りの状況や環境に適応しながら、**困難に立ち向かう力**を育むことが求められる。



掛川市では、本市の特色である中学校区学園化構想を生かした、小中一貫教育を推進していく。

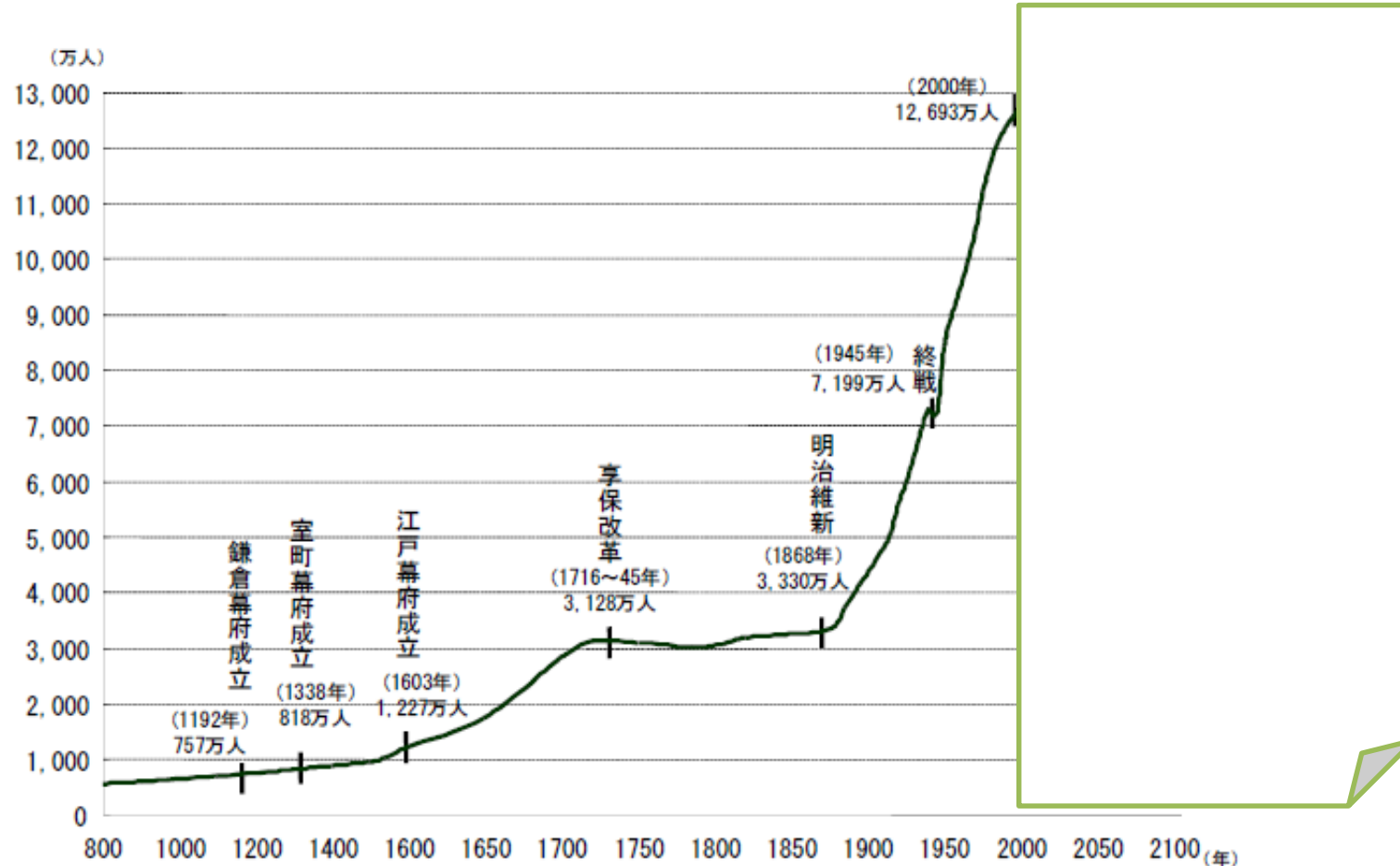
本市が目指す子どもの
育成方策の1つ

本市教育の課題を解決
する方策の1つ



2 小中一貫教育が求められる背景

【図 I-1】我が国の人口は長期的には急減する局面に



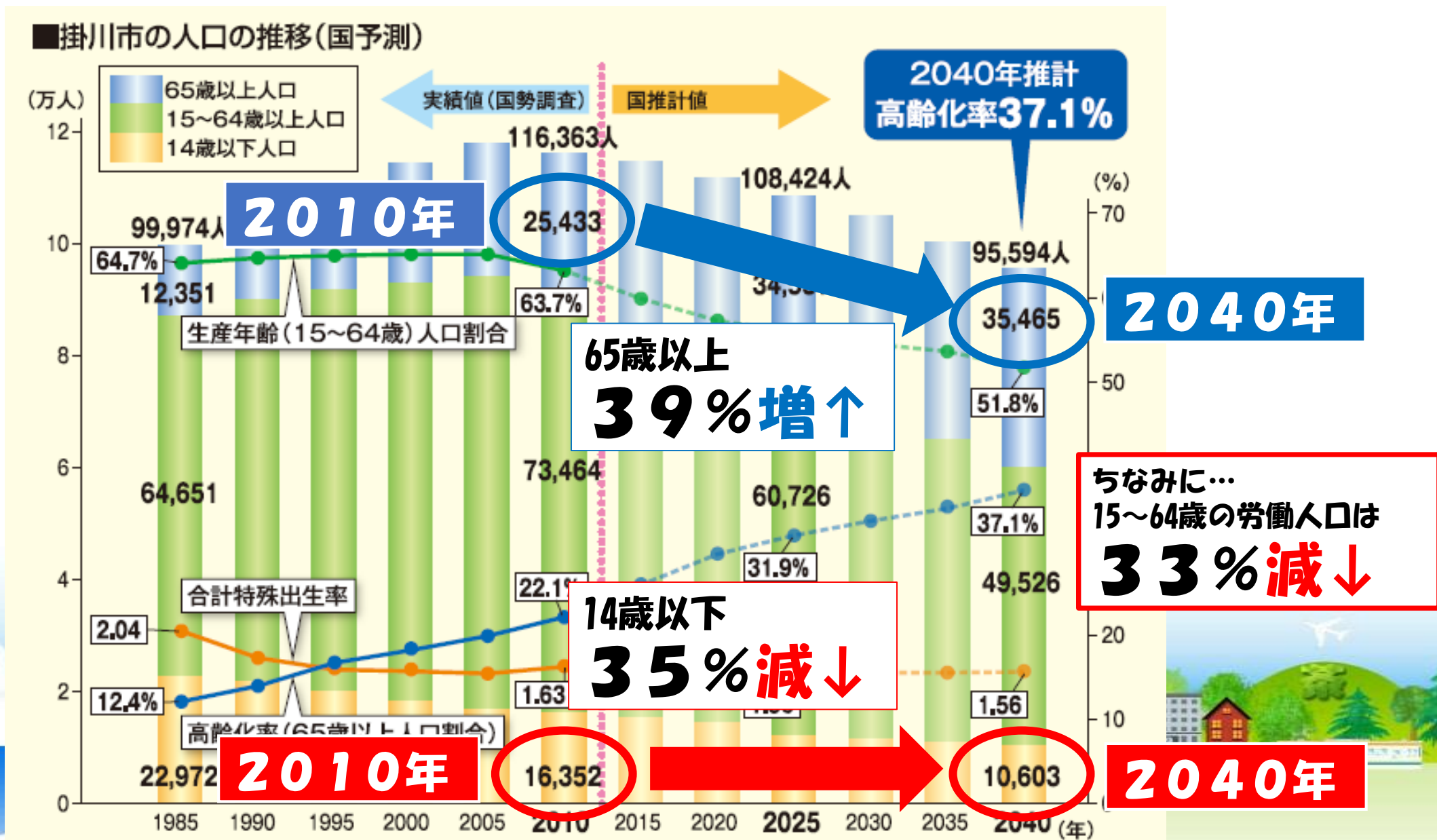
(出典)総務省「国勢調査報告」、同「人口推計年報」、同「平成12年及び17年国勢調査結果による補間推計人口」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成18年12月推計)」、国土庁「日本列島における人口分布の長期時系列分析」(1974年)をもとに、国土交通省国土計画局作成

2000年以降の人口
はどうなる？



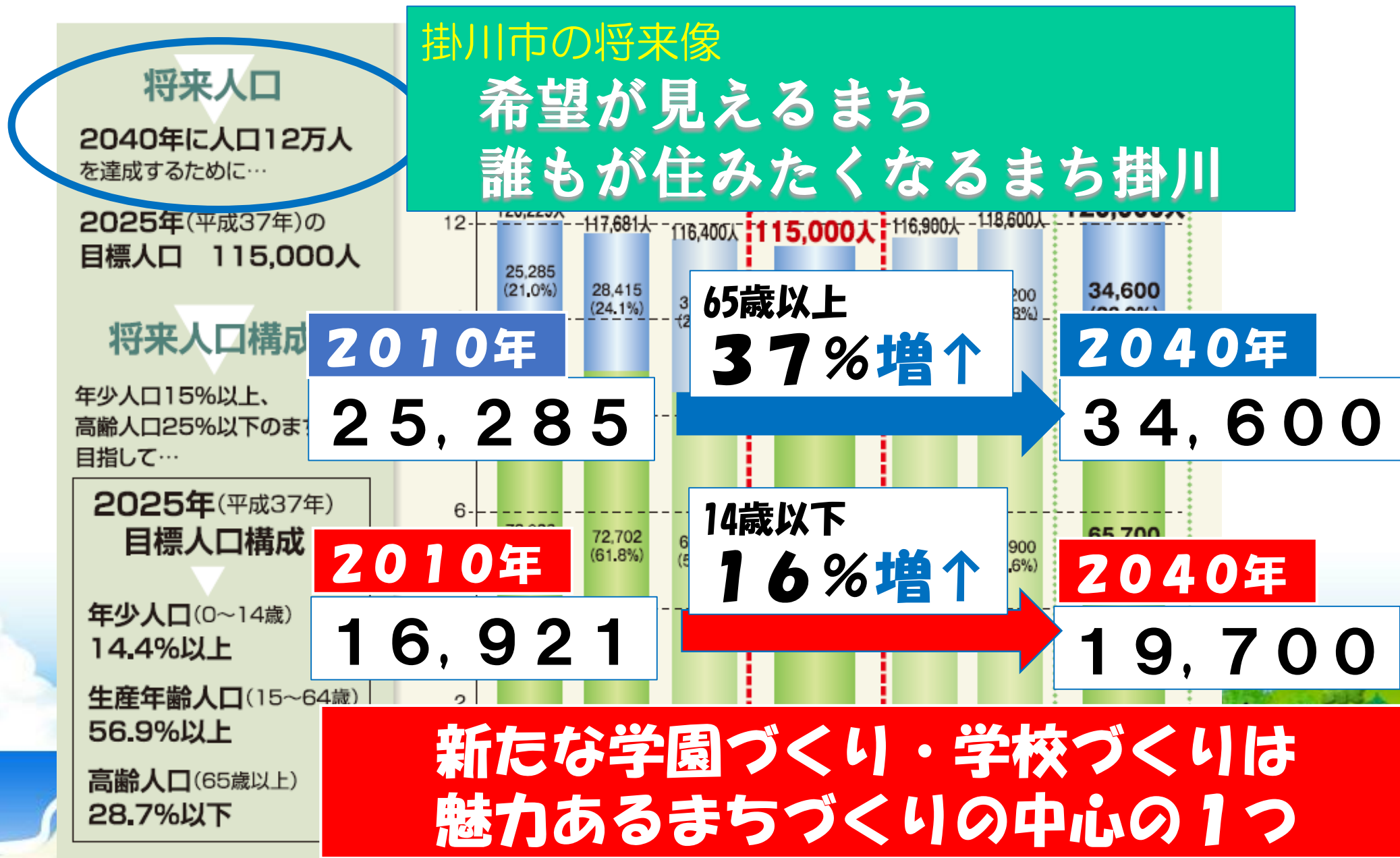
2 小中一貫教育が求められる背景

○掛川市の人口の推移
(国予測 第2次掛川市総合計画抜粋資料)



2 小中一貫教育が求められる背景

○基本構想における目標人口
(第2次掛川市総合計画抜粋資料)



2 小中一貫教育が求められる背景

児童生徒数の推移については
別紙参照



2 小中一貫教育が求められる背景

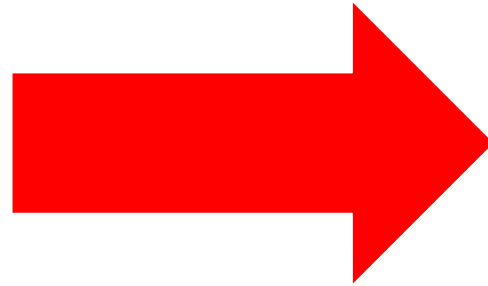
人口減少・少子高齢化社会の到来

人口減少



労働力・予算の減少

現在の掛川市の教育の在り方をそのまま維持できるか？



空間のゆとり

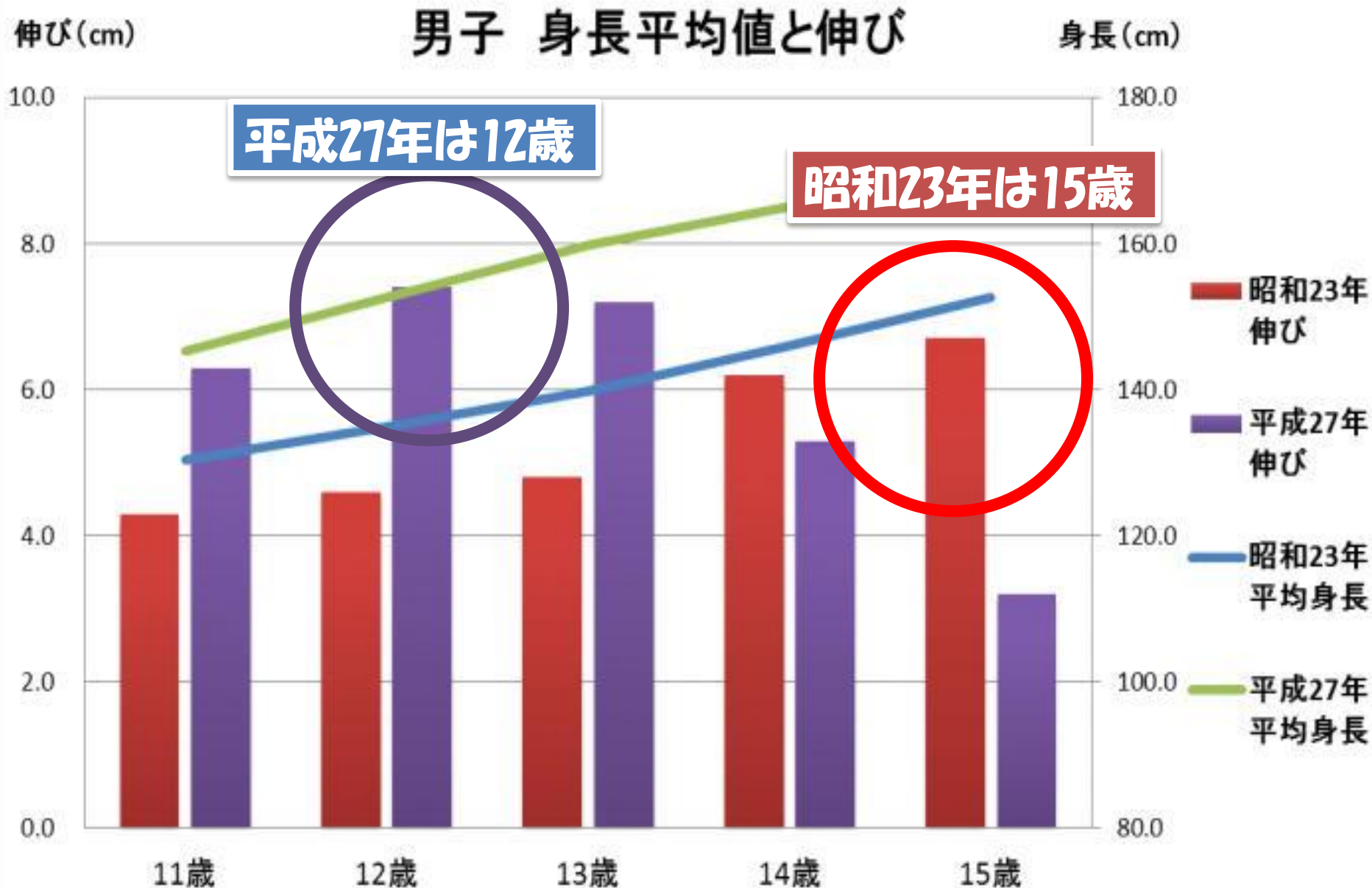
より広い範囲の人々と交流

過去のしがらみにとらわれて
限られた資源を奪い合うので
はなく、未来を向いて力を合
わせていくことの大切さ

(第2ステージ検討委員会報告書から)

子どもの目線に立って子どもたちの未来のための
新たな学校づくりが必要

2 小中一貫教育が求められる背景

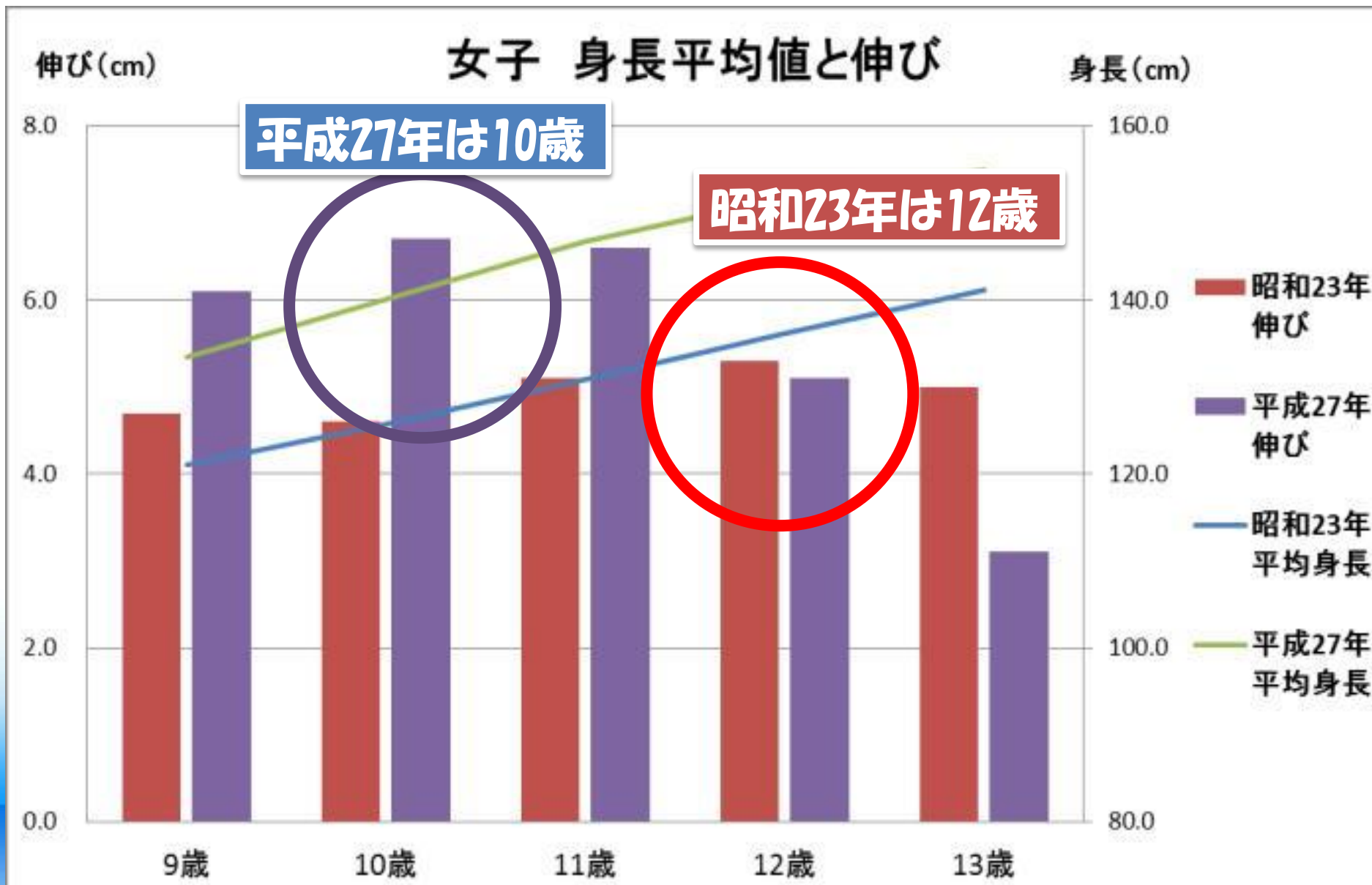


子どもの
発達段階

義務教育6-3制
が始まった年代
と現在とを比較
した場合、**身体
の成長が早期
化**している。



2 小中一貫教育が求められる背景



子どもの発達段階

義務教育6-3制が始まった年代と現在とを比較した場合、**身体**の成長が**早期化**している。



2 小中一貫教育が求められる背景

家族形態の変化

出生数及び合計特殊出生率の推移

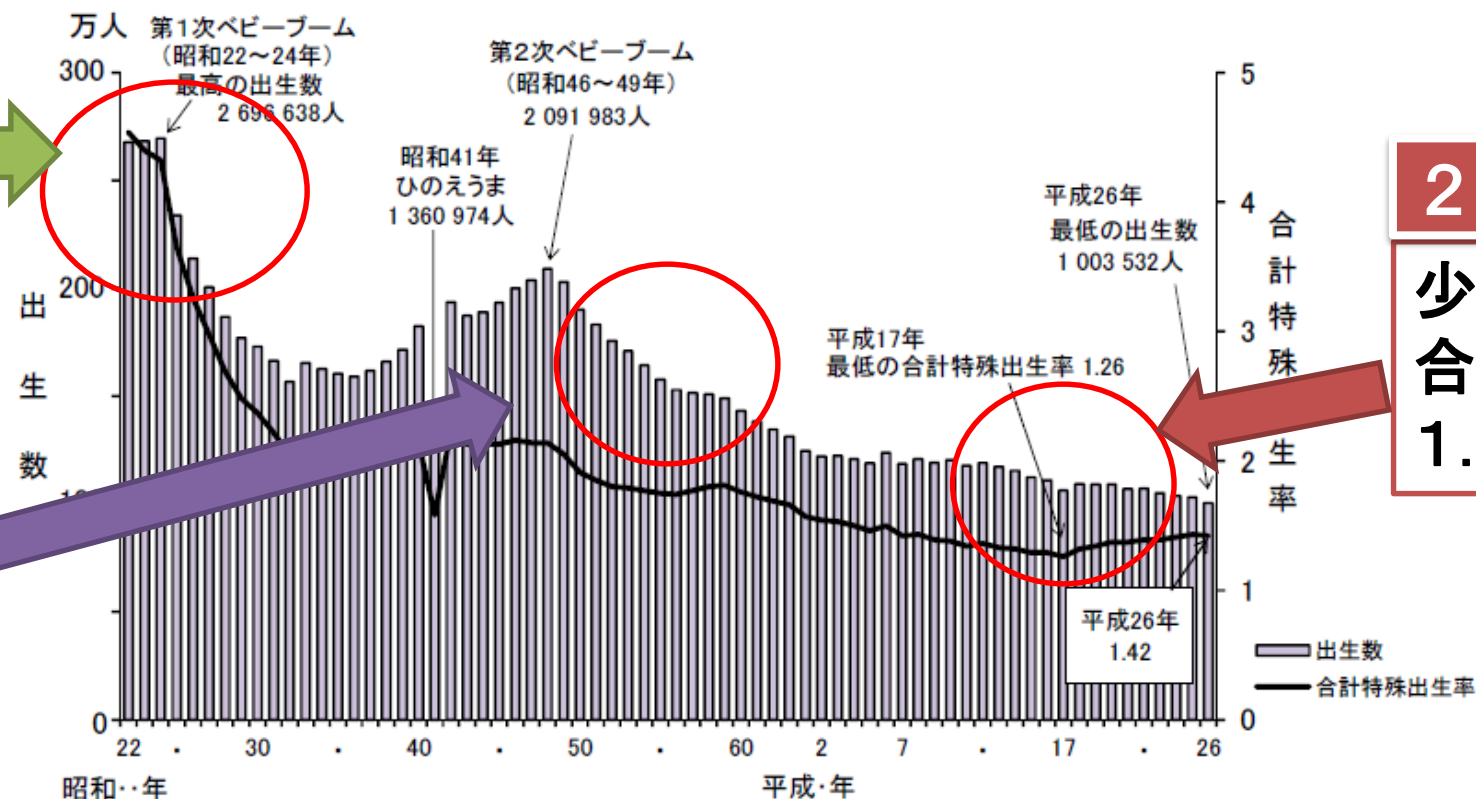
戦後

団塊の世代
合計特殊出生率
4.3人

1970年代

団塊ジュニア
+少産世代
合計特殊出生率
2.1人

出生数は、昭和24年の269万6638人をピークに昭和50年以降は減少と増加を繰り返しながら減少傾向が続いており、平成23年から4年連続で減少。
合計特殊出生率は、平成18年から上昇傾向が続いていたが、平成26年は低下。



2000年代

少子世代
合計特殊出生率
1.25人



2 小中一貫教育が求められる背景

家族形態の変化

戦後

団塊の世代
合計特殊出生率
4.3人

⇒夢は「1人になりたい」
⇒学校外が真の人生

1970年代

団塊ジュニア
＋少産世代
合計特殊出生率
2.1人

⇒異年齢の友を失う
⇒教室外で友達獲得可能だが、学校外は逸脱世界

2000年代

少子世代
合計特殊出生率
1.25人

⇒同世代の友を失う
⇒教室の中しか友達を見出せない
⇒親も孤立

地域が家庭・学校を補う

2 小中一貫教育が求められる背景

第四次産業革命

第1次

水力、蒸気機関の応用
工場制機械工業の幕開け



1784
初の機械織機
(イギリス)

第2次

電気や物流網の発展に伴う
大量生産時代の幕開け



1870
初のコンベヤー
(アメリカ)

第3次

電子技術やITを活用したファクトリーオートメーションの実用化



1969
初のプログラム・ロジックコントローラー(アメリカ)

第4次

IT技術とモノとモノの
ネットワーク化が可能とする技術革新



プログラミング教育

AI先生

2 小中一貫教育が求められる背景

10年後、なくなる職業(予測)はどれ？

案内係



審判



ウェ이터



運転手



彫刻師



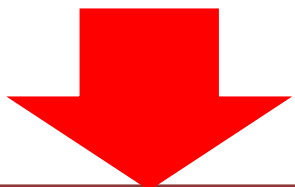
弁護士
秘書



2 小中一貫教育が求められる背景

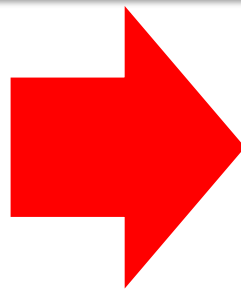
社会の急激な変化

社会の急激な変化



困難な状況に立ち向かうことのできる力

周りの状況の変化や環境に適応



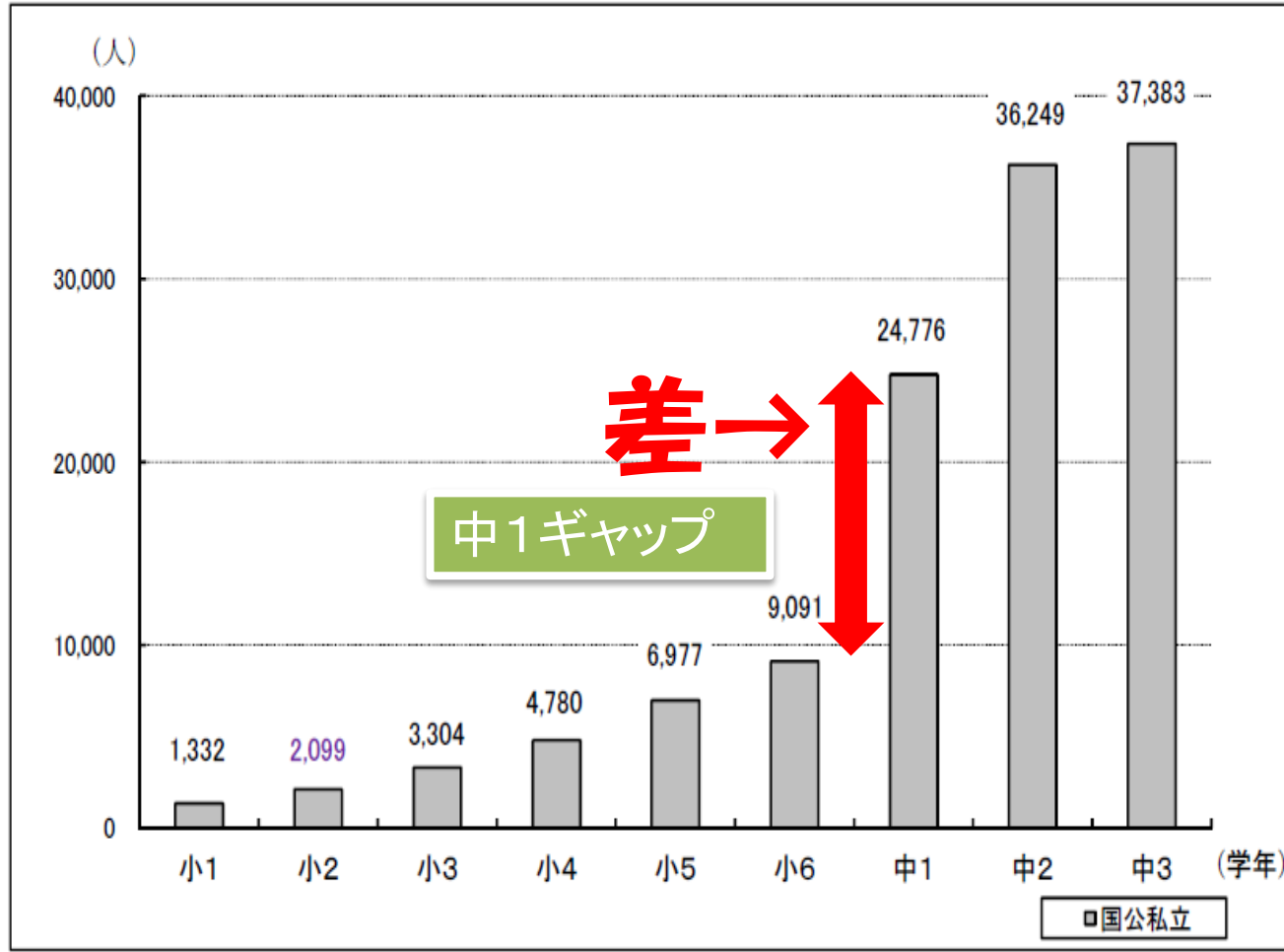
コミュニケーション力

様々な相手や他学年の子どもたちなどとのコミュニケーション力が鍵

これまで以上に質の高い教育が展開できる学校

2 小中一貫教育が求められる背景

平成27年度 学年別不登校児童生徒数の推移



※不登校により、年度間に連続又は断続して30日以上欠席した児童生徒数

中1ギャップ

子どもたちが小学校から中学校への進学に際し、新しい環境での学習や生活になじめず不登校になったり、いじめが増加したりすること

学校間縦の接続

子どもの成長段階に応じたなめらかな接続ができるように9年間を通した支援。



2 小中一貫教育が求められる背景

栄川学園

郷土唱歌「小
夜の中山」を
唄い継ぐ



城東学園

佐束小児童
もみまき体験



社会性の育成

身近な年長者の生き方から未来に夢
やあこがれをもって生きることの大切
さを日々学んでいる。



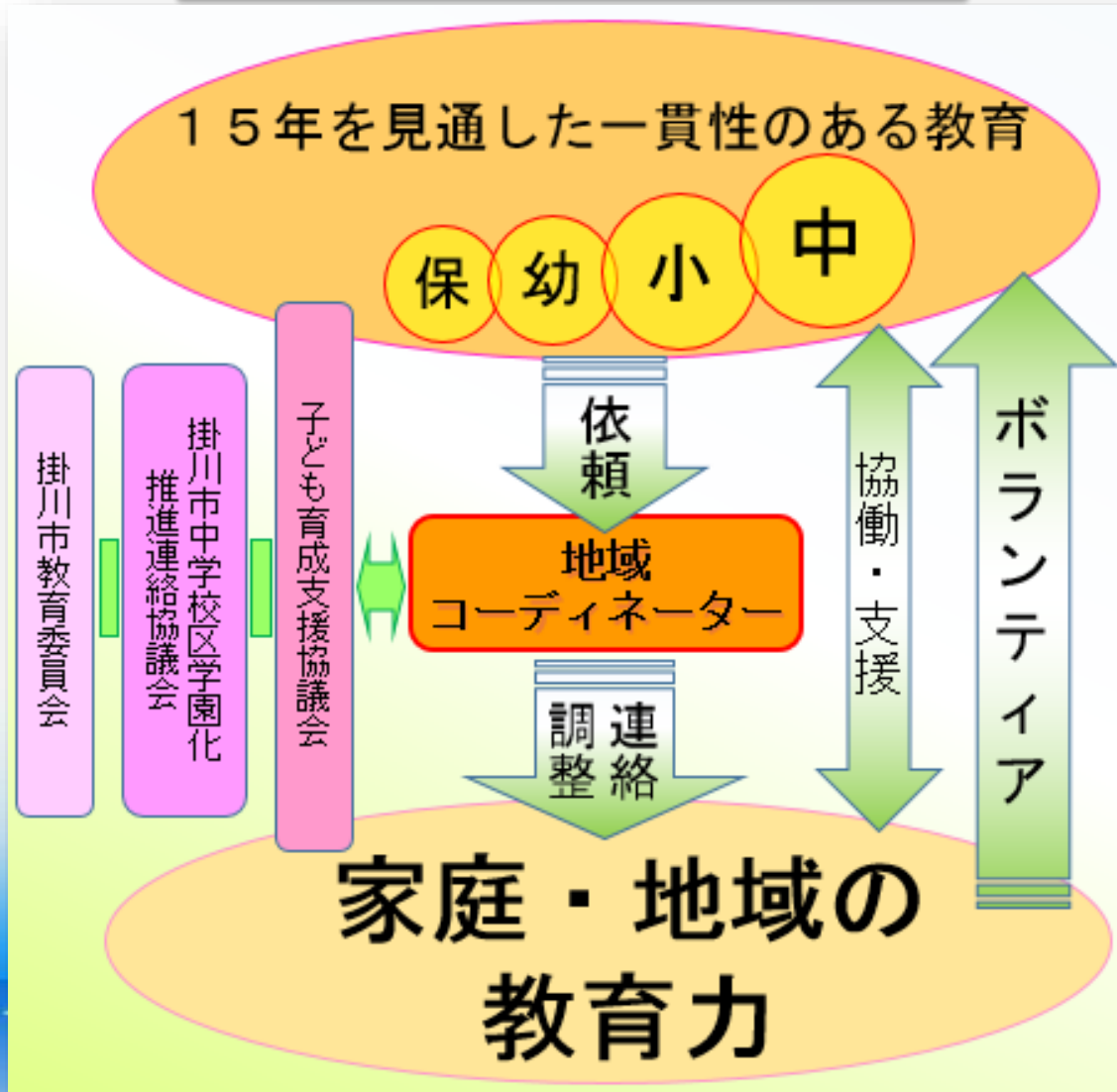
原野谷学園

「ベニヤ人を作ろう！」
小中合同授業



2 小中一貫教育が求められる背景

中学校区学園化構想



地域の教育力を活かした教育

中学校区学園化構想は、**学校・家庭・地域が連携して、子どもを育てる教育の仕組み**です。

中学校区を「学園」と呼び、区長等の地域代表と保護者や学校代表からなる「**子ども育成支援協議会**」を中心に、保幼小中の連携・一貫教育と、園・学校支援活動の推進を図っています。

地域の教育力を園・学校に取り込み、市民総ぐるみで園・学校を支援
園・学校の大応援団

2 小中一貫教育が求められる背景

背景から見えてくること

少子高齢化

家族形態

職業

中1ギャップ

社会性

困難に立ち向かう力

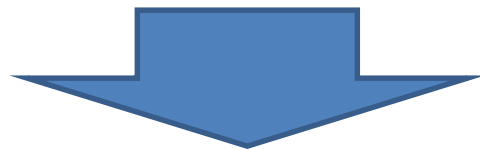
多くの人と
かかわることができる
環境の必要性

コミュニケーション力
の向上

3 掛川市が目指す小中一貫教育

少子高齢化、グローバル化の進展など、これからの社会は今以上に急激な変化が予想される。

子どもたちが周りの状況や環境に適応しながら、困難に立ち向かう力を育むことが求められる。



掛川市では、本市の特色である中学校区学園化構想を生かした、小中一貫教育を推進していく。

本市が目指す子どもの
育成方策の1つ

本市教育の課題を解決
する方策の1つ

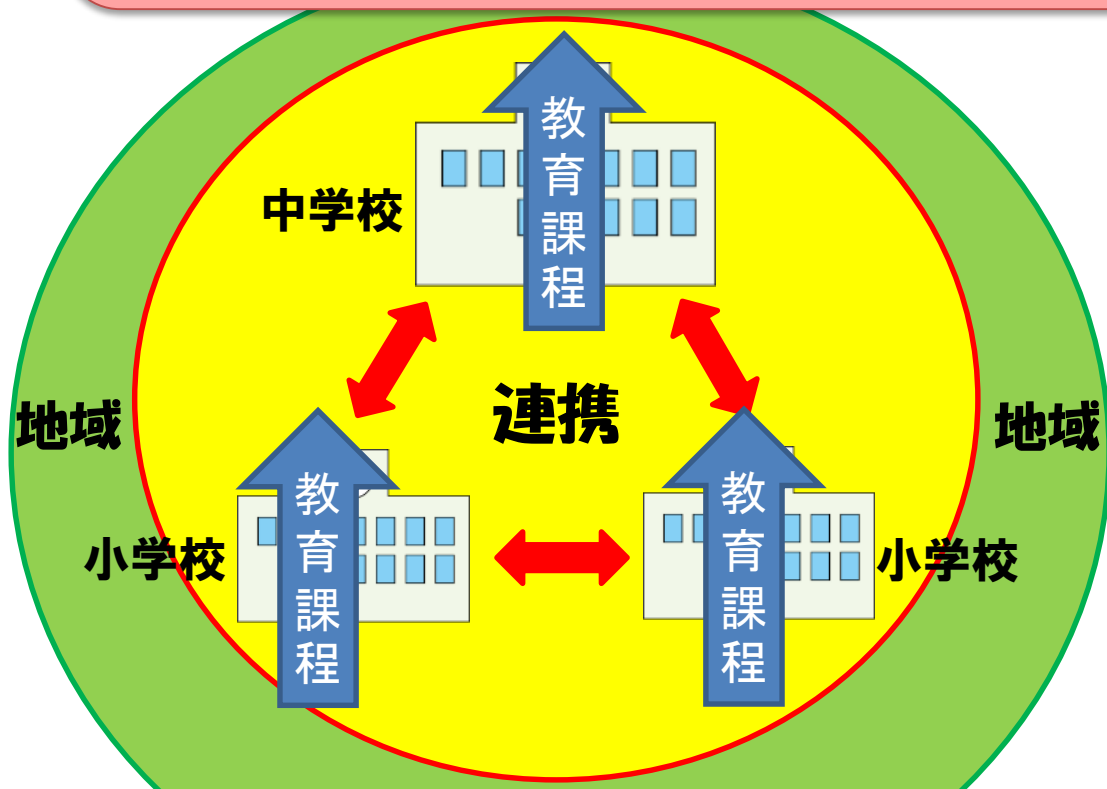


3 掛川市が目指す小中一貫教育

中学校区学園化構想を生かして

【小中連携教育】

小・中学校が、互いに情報交換や交流を行うことを通じて、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指す様々な教育



○地域とともにある、保幼小中連携教育を強化・推進できた。

○中学校区ごとの研修会、授業公開等が充実した。等

学園化構想の成果

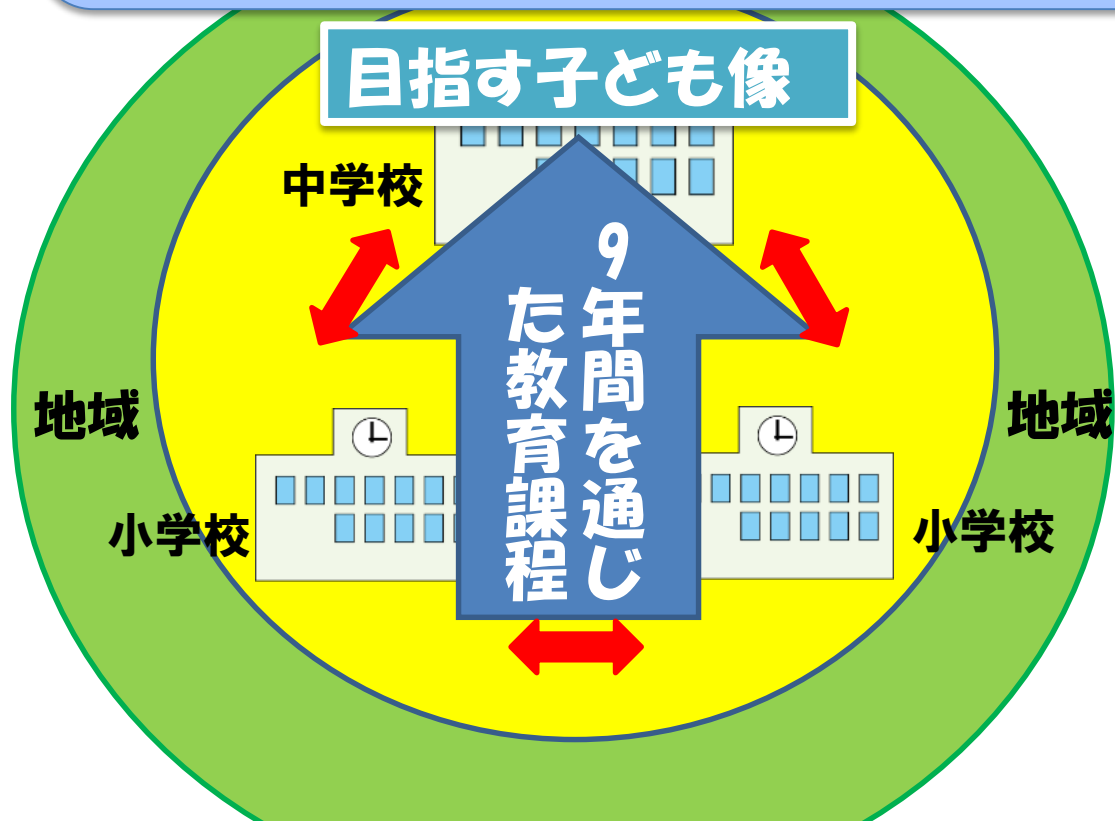
△連携は深まったが、一貫までは行き着いていない。

3 掛川市が目指す小中一貫教育

さらに

【小中一貫教育】

小中連携教育のうち、小・中学校が目指す子供像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を目指す教育



キーワード

目指す子ども像を共有
9年間を見通した教育課程の編成
系統的な教育

連携教育から更に一步進め、
一貫教育を推進していきたい！

3 掛川市が目指す小中一貫教育

そこで…

掛川市が目指す小中一貫教育

【ねらい】

中学校区学園化構想を生かしながら、各学園が地域と共に目指す子ども像を設定・共有し、その実現を図るため、9年間を見通したかけがわ型の小中一貫カリキュラムを編成して、それに基づいて行う系統性のある教育を推進する。

目指す子ども像は
学園と地域と一緒に
【地域とともにある学校】

小中学校のつながり
のある教育の実現
【教育の質の向上】

地域の特色を生かした
カリキュラム編成
【一貫カリキュラム】

3 掛川市が目指す小中一貫教育



目指す子ども像の共通理解

学園の子ども現状と課題、保護者や地域の願いを踏まえ、義務教育を終える段階での身に付けておくべき力は何かという観点から、目指す子ども像を設定・共有します。



3 掛川市が目指す小中一貫教育

指導の充実

～小中学校の指導のつながり～

小中一貫カリキュラム研究

- 各学園で地域の特色を生かした教育を行います。
- 各教科の指導内容のつながりを意識し、9年間を見通した教科指導の研究及び実践を行います。

(H29～H31 指定研究校 原野谷学園・城東学園)

教科担任制の導入

- 子どもの成長と学園の実情に応じて教科担任制を導入し、教員の専門性を生かした授業を行います。

学校間の縦の接続

- 小中学生の積極的な交流活動や小中一貫した指導方法等により、小学校から中学校へ進学する際の環境の変化を小さくし、中1ギャップの緩和を図ります。

英語教育の充実

- 小学校の英語教科化を踏まえながら、掛川独自の英語カリキュラム「新・掛川スタンダード」を作成し、市全体で英語教育を進めます。



3 掛川市が目指す小中一貫教育

指導の充実

～小中学校の指導のつながり～

体験活動の充実

- ・掛川市にある豊かな自然や文化等について、学園としての地域や保護者のネットワークを活用し、多くの人とかかわりながら本物に触れる体験活動を充実させます。

ICT活用の推進

- ・子どもたちの対話を重視した主体的、協働的な学びを実現する道具としてICT機器を活用し、情報活用能力やICTスキルを育みます。

特別支援教育の充実

- ・小中学校間の連携を図り、一貫したカリキュラム及び一人一人の情報を共有して、これまで以上に継続生のある指導・支援を行います。
- ・学校と保護者が9年間継続的に関係を築き、協力し合うことにより、充実した特別支援教育を展開します。

心の教育の推進

- ・報徳の教えが根づく掛川らしさを生かした「かけがわ道徳」を推進していきます。
- ・規範意識、自他の生命尊重、自尊感情や他者への思いやり、いじめ未然防止に関することを中核とし、各学園の実態に応じた道徳教育に取り組みます。

3 掛川市が目指す小中一貫教育

地域の支え

～多くの人とのつながり～

地域とともにある学校づくり

- 地域でどのような子どもたちを育てるのか、将来像を共有し、学校と地域が一体となって子どもたちを育んでいきます。
- 学校運営や学校の課題に対して、保護者や地域の皆さんが参画するコミュニティ・スクールを推進していきます。



「やってみたい！」
「できた！」
という学びの意欲や喜びを
もっと積み重ねたい

社会性の育成

- 小中学生の関わりの中で考え方や生き方を学ぶ機会を増やし、年長者に対してあこがれを抱きます。
- 地域の方々が学校教育へ積極的に参画し、支援していただき、地域の良さや人の温かさを学ぶ交流体験の充実を図ります。

「地域が大好き！」
「掛川が大好き！」
と思う子をもっと
増やしたい



3 掛川市が目指す小中一貫教育

推進基本方針

掛川市が目指すひと



子どもたちの未来のために
何をすべきか、何ができるのか

この視点に立って策定した
「教育大綱かけがわ」にある
目指す姿 に向かって、子ども
たちのための教育を推進します。

高い目標を持ち、
新たな価値の創
造にチャレンジ
するひと

変化の激しい
社会で生き抜
く力を備えて
いるひと

目指す姿

多様な人々を
結び、地域で
もグローバル
にも活躍でき
るひと

自立する心
を持ち、他
者の考えや
痛みに共感
できるひと

豊かな心や
健やかな体
に高めてい
くひと

- ①小中一貫教育を中心とした新たな学校づくりは、掛川市の特色である中学校区学園化構想を生かして、学園ごとの枠組みを基本に進めます。
- ②全学園において、9年間を見通したかけがわ型の小中一貫カリキュラムを編成した教育を行い、市全体で質の高い教育を推進します。



3 掛川市が目指す小中一貫教育

推進基本方針

- ③小中一貫教育の充実を図るために、地域の教育力向上の推進、地域が主体となって教育に参画できる仕組みを構築します。
- ④新たな学校づくりの在り方について、学園ごとに、地域代表、園・学校の保護者、学校関係、教育委員会、市長部局、外部有識者等を含めた会で検討します。
- ⑤子ども育成支援協議会やまちづくり協議会など、子どもの成長に係る地域団体と共に、望ましい教育環境づくりを進めます。



3 掛川市が目指す小中一貫教育

推進基本方針

- ⑥ 小中一貫教育校の施設の在り方や種類等については、児童生徒数の推移や地域の意見及び地域の実情を踏まえた上で適切なものを選択します。
- ⑦ 各学園の枠組みを維持しつつ、可能な限り一学年に複数の学級が設置されるよう対策を講じます。
- ⑧ 新たな学校施設の在り方として、教育施設やその他公共施設の複合化・多機能化も視野に入れて地域の施設整備を構想します。



4 全国・県内の状況

小中一貫教育を推進する学校

① 小中一貫型小学校・中学校

修業年数	小学校6年、中学校3年
組織・運営	それぞれの学校に校長、教職員組織
施設形態	施設一体型・施設隣接型・施設分離型
教育課程	・9年間の教育目標を設定 ・9年間の系統性・体系性に配慮がなされている教育課程の編成
免許	所属する学校の免許状
H29設置数	253件(H28:165件) (施設一体型66件・施設隣接型・32件・施設分離型155件)

4 全国・県内の状況

小中一貫教育を推進する学校

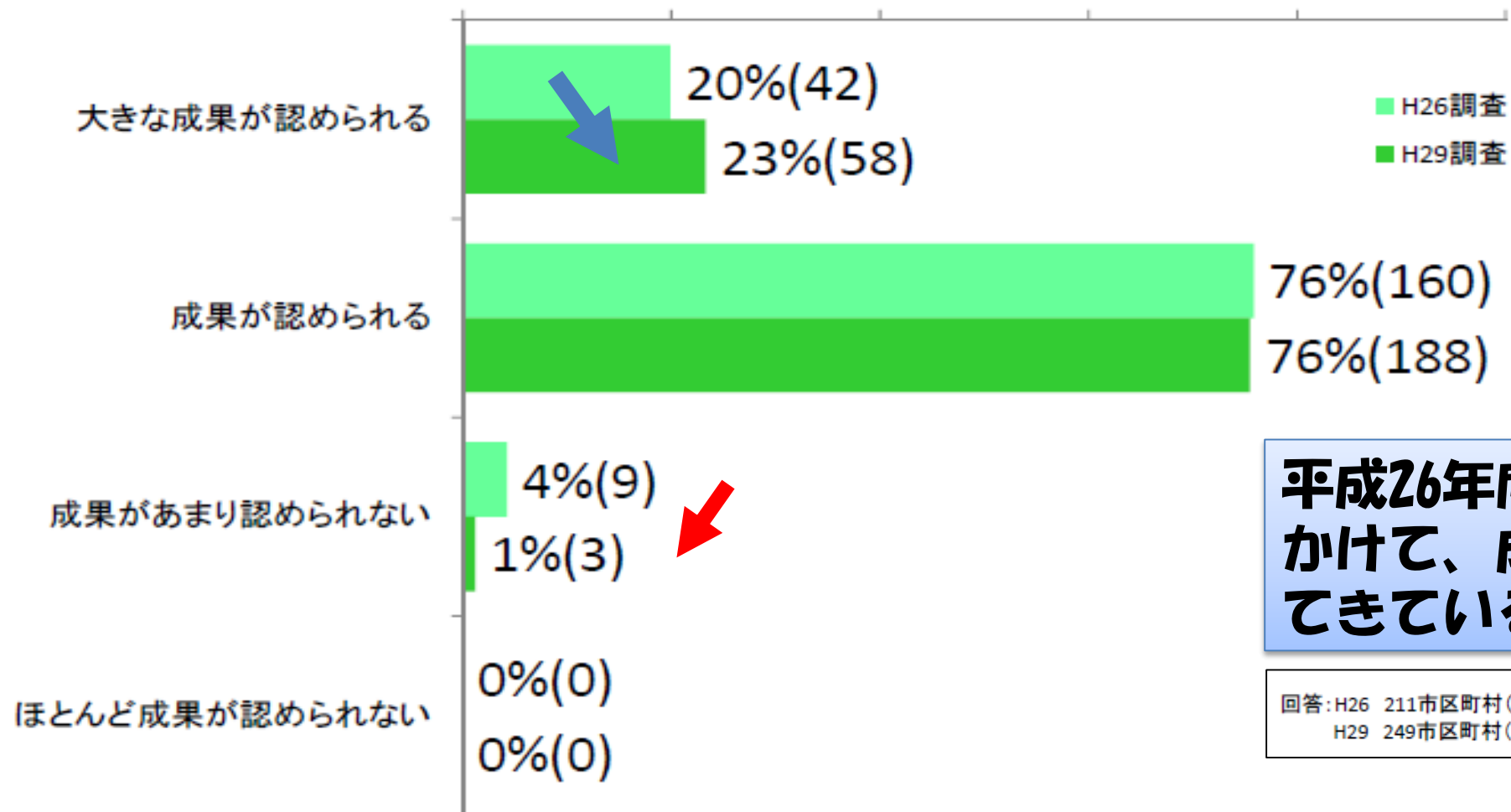
② 義務教育学校

修業年数	9年（前期課程6年＋後期課程3年）
組織・運営	1人の校長、1つの教職員組織
施設形態	施設一体型・施設隣接型・施設分離型
教育課程	・9年間の教育目標を設定 ・9年間の系統性・体系性に配慮がなされている教育課程の編成
免許	原則小学校・中学校の両免許状を併有
H29設置数	48校（H28:22校） （施設一体型41校・施設隣接型6校・施設分離型1校）

4 全国の状況 小中一貫教育のこれまでの取組の総合的な評価（成果）

小中一貫教育のこれまでの取組の総合的な評価（成果）

【公立】



平成26年度から29年度にかけて、成果が認められてきている。

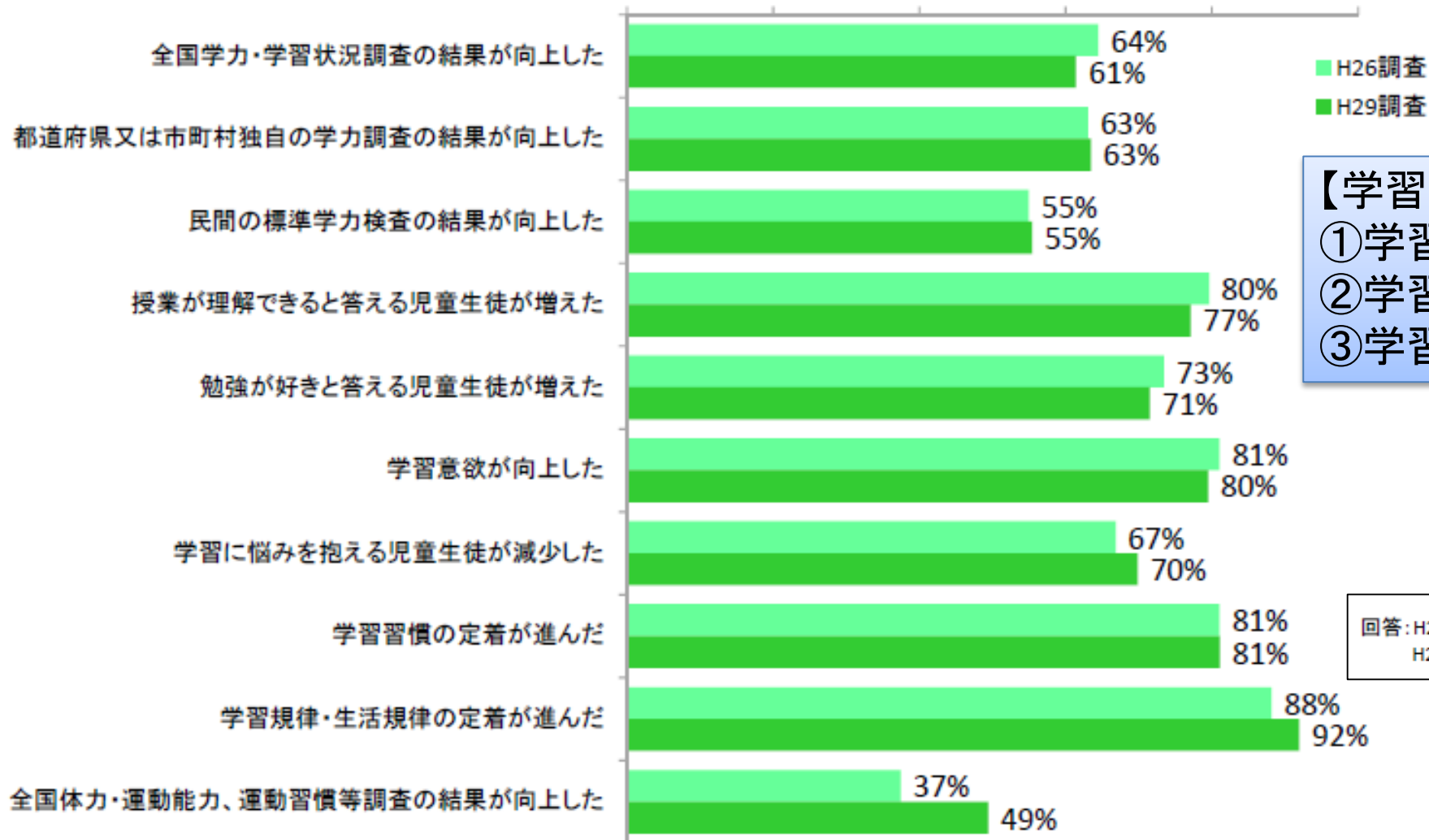
回答：H26 211市区町村（小中一貫教育実施市区町村）
H29 249市区町村（小中一貫教育実施市区町村）

小中一貫教育の成果①

【公立】

学習指導等

※「大きな成果が認められる」、「成果が認められる」と回答した割合



【学習指導：上位3項目】

- ①学習規律・生活規律の定着
- ②学習習慣の定着
- ③学習意欲の向上

回答：H26 211市区町村（小中一貫教育実施市区町村）
H29 249市区町村（小中一貫教育実施市区町村）

小中一貫教育の成果②

【公立】

生徒指導等

※「大きな成果が認められる」、「成果が認められる」と回答した割合



H26調査

H29調査

【生徒指導:上位3項目】

- ①進学に不安を感じる児童の減少
- ②上級生が下級生の手本
- ③上級生に対する憧れの気持ち
- ③いわゆる中1ギャップの緩和

回答: H26 211市区町村(小中一貫教育実施市区町村)

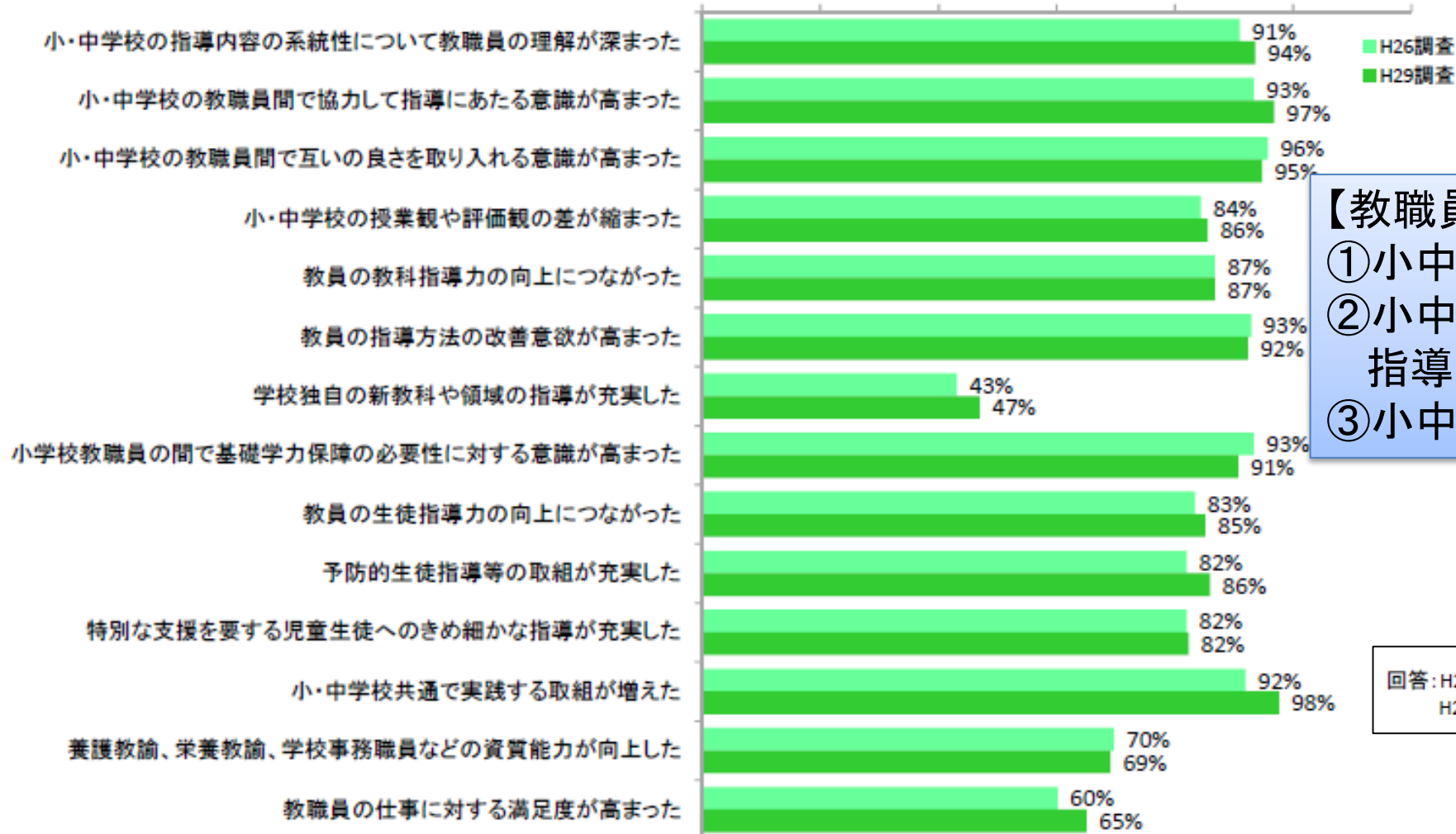
H29 249市区町村(小中一貫教育実施市区町村)

小中一貫教育の成果③

【公立】

教職員の協働等

※「大きな成果が認められる」、「成果が認められる」と回答した割合



【教職員：上位3項目】

①小中共通実践の取組

②小中学校の教職員間で協力して指導

③小中の互いの良さを取り入れる

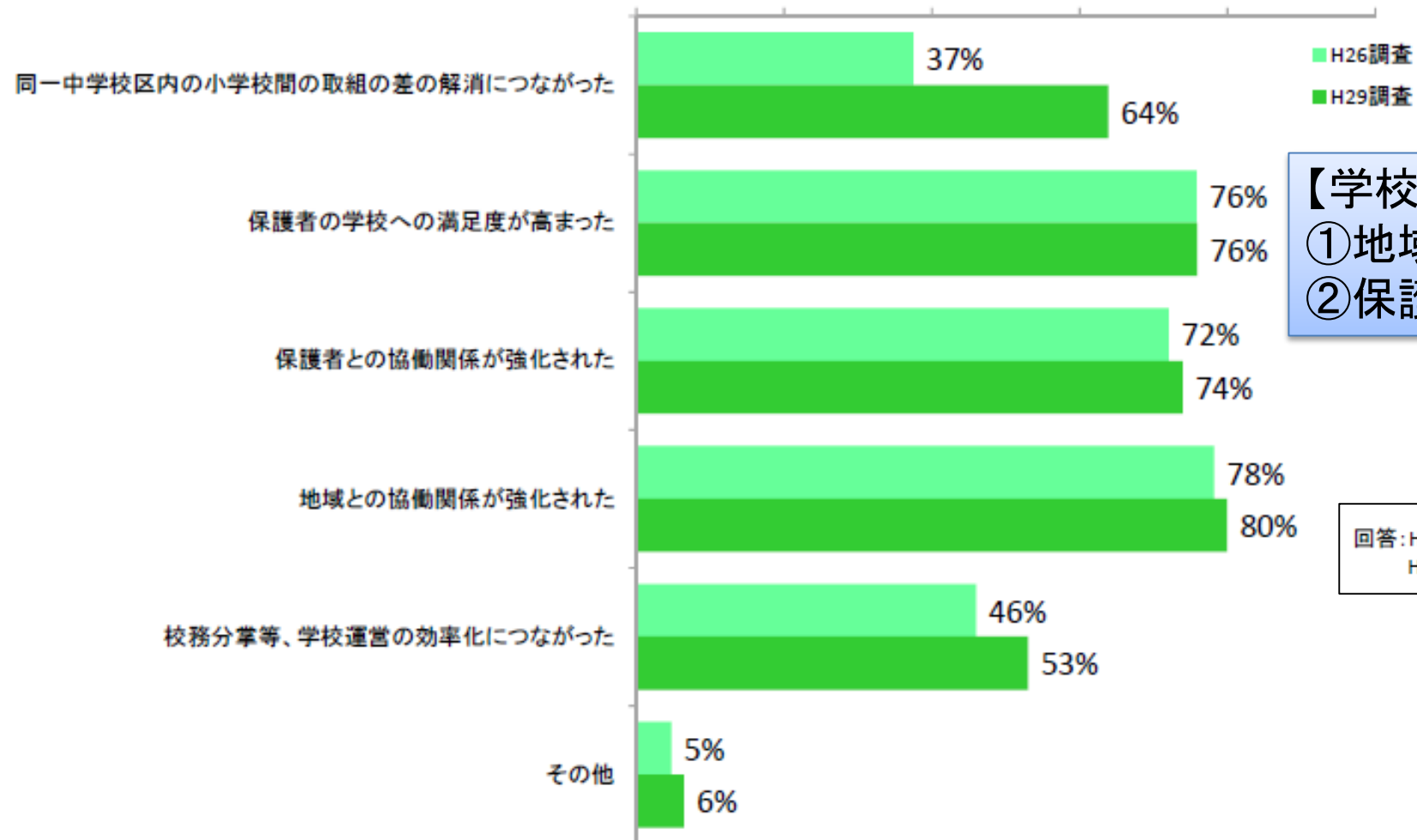
回答：H26 211市区町村（小中一貫教育実施市区町村）
H29 249市区町村（小中一貫教育実施市区町村）

小中一貫教育の成果④

【公立】

その他、学校運営等

※「大きな成果が認められる」、「成果が認められる」と回答した割合



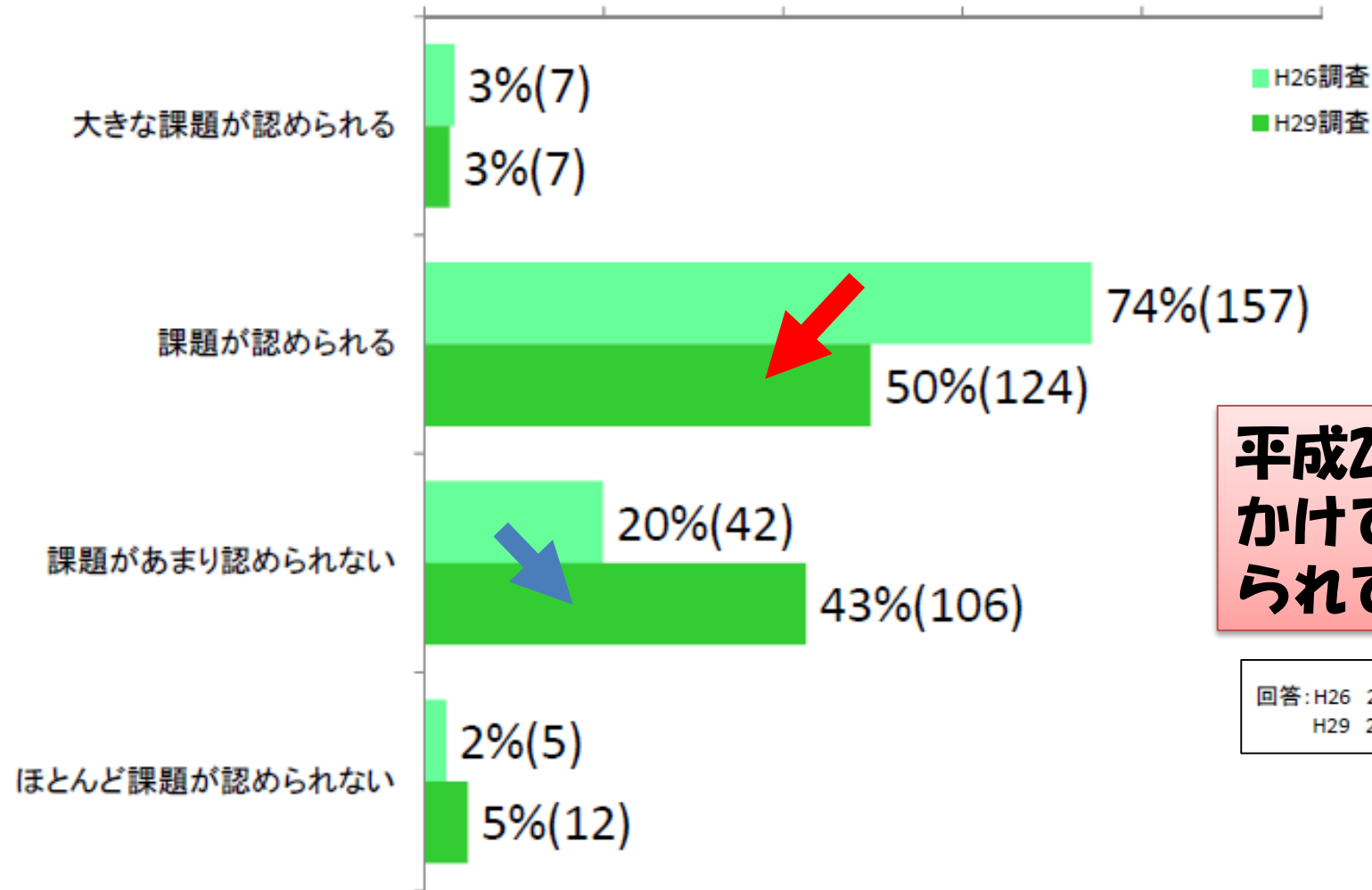
【学校運営等：上位3項目】
①地域との協働関係の強化
②保護者の満足度

回答：H26 211市区町村（小中一貫教育実施市区町村）
H29 249市区町村（小中一貫教育実施市区町村）

4 全国の状況 小中一貫教育のこれまでの取組の総合的な評価（課題）

小中一貫教育のこれまでの取組の総合的な評価（課題）

【公立】



平成26年度から29年度にかけて、課題の解消が図られてきている。

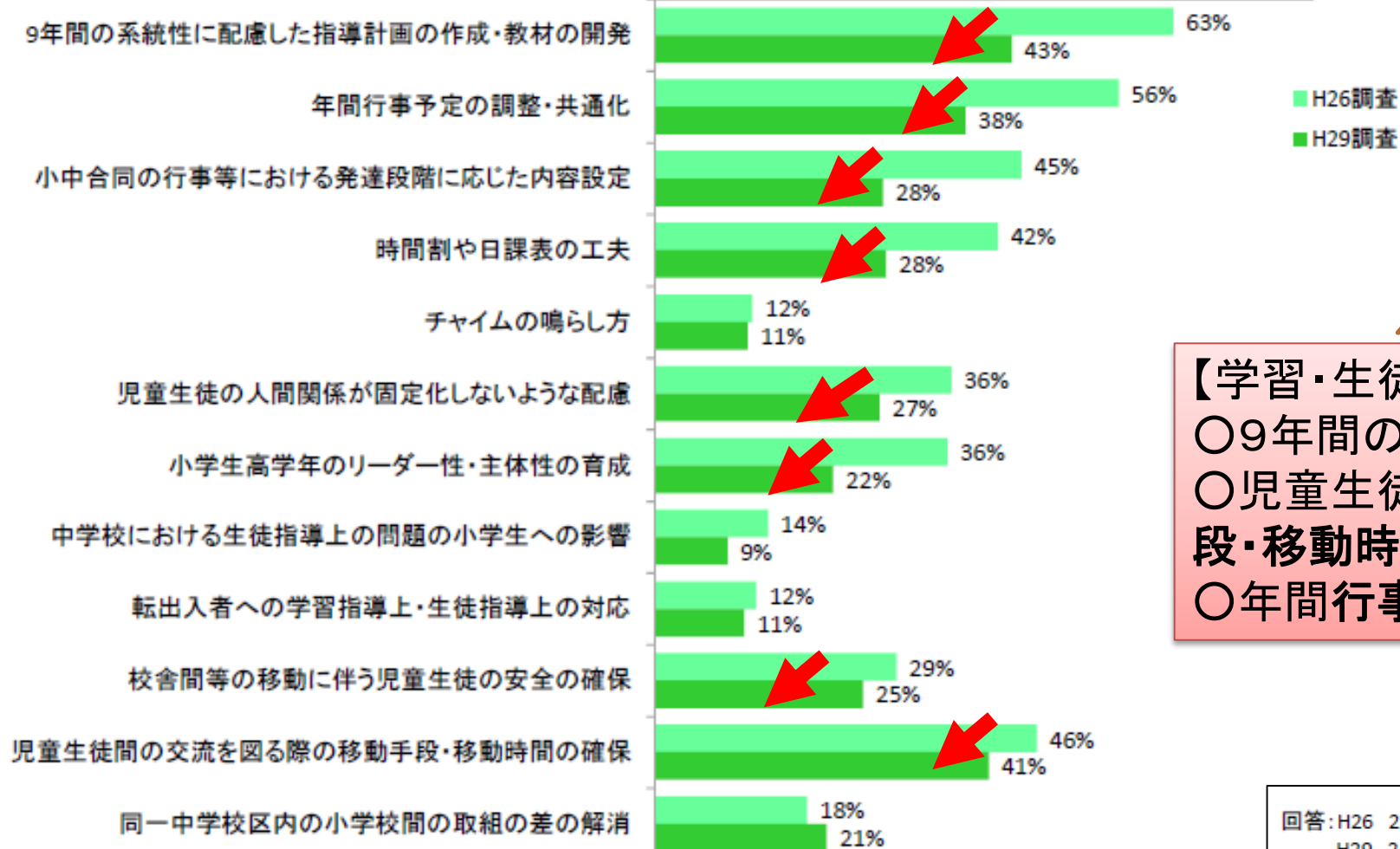
回答：H26 211市区町村（小中一貫教育実施市区町村）
H29 249市区町村（小中一貫教育実施市区町村）

小中一貫教育の課題①

【公立】

学習指導、生徒指導等

※「大きな課題が認められる」、「課題が認められる」と回答した割合



課題→ 時間

- ・移動
- ・行事の共通化 等

【学習・生徒指導：上位3項目】

- 9年間の系統性に配慮した指導計画
- 児童生徒間の交流を図る際の移動手段・移動時間の確保
- 年間行事予定の調整・共通化

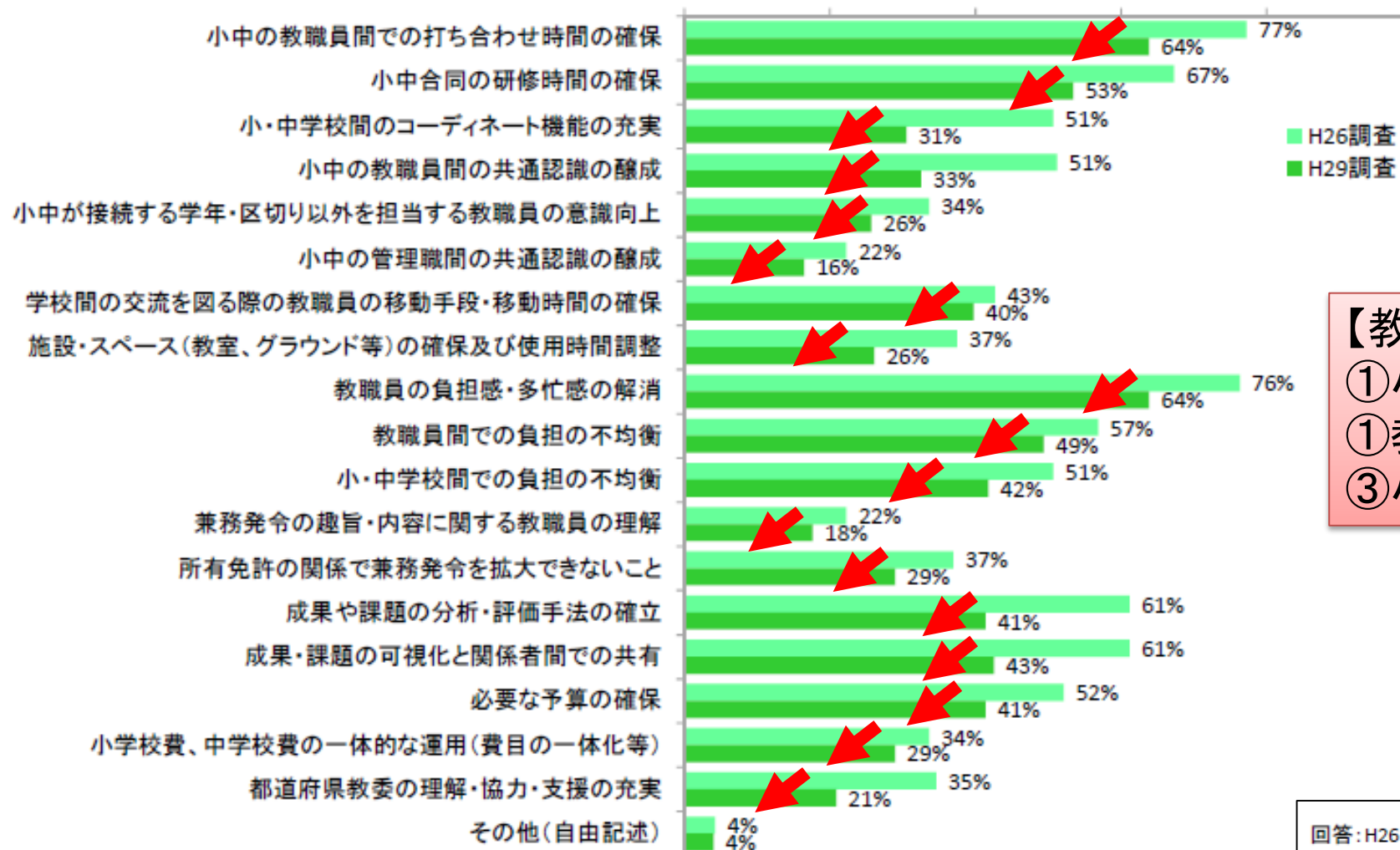
回答：H26 211市区町村（小中一貫教育実施市区町村）
H29 249市区町村（小中一貫教育実施市区町村）

小中一貫教育の課題②

【公立】

教職員の負担等

※「大きな課題が認められる」、「課題が認められる」と回答した割合



課題→ **時間**
 ・打合せ
 ・研修 等

【教職員:上位3項目】

- ①小中教職員間での打ち合わせ時間
- ①教職員の負担感・多忙間の解消
- ③小中合同の研修時間

回答: H26 211市区町村(小中一貫教育実施市区町村)
 H29 249市区町村(小中一貫教育実施市区町村)

4 全国・県内の状況

静岡県内の導入実績

静岡市立井川小中学校

静岡市立梅ヶ島小中学校

静岡市立大河内小中学校

静岡市立大川小中学校

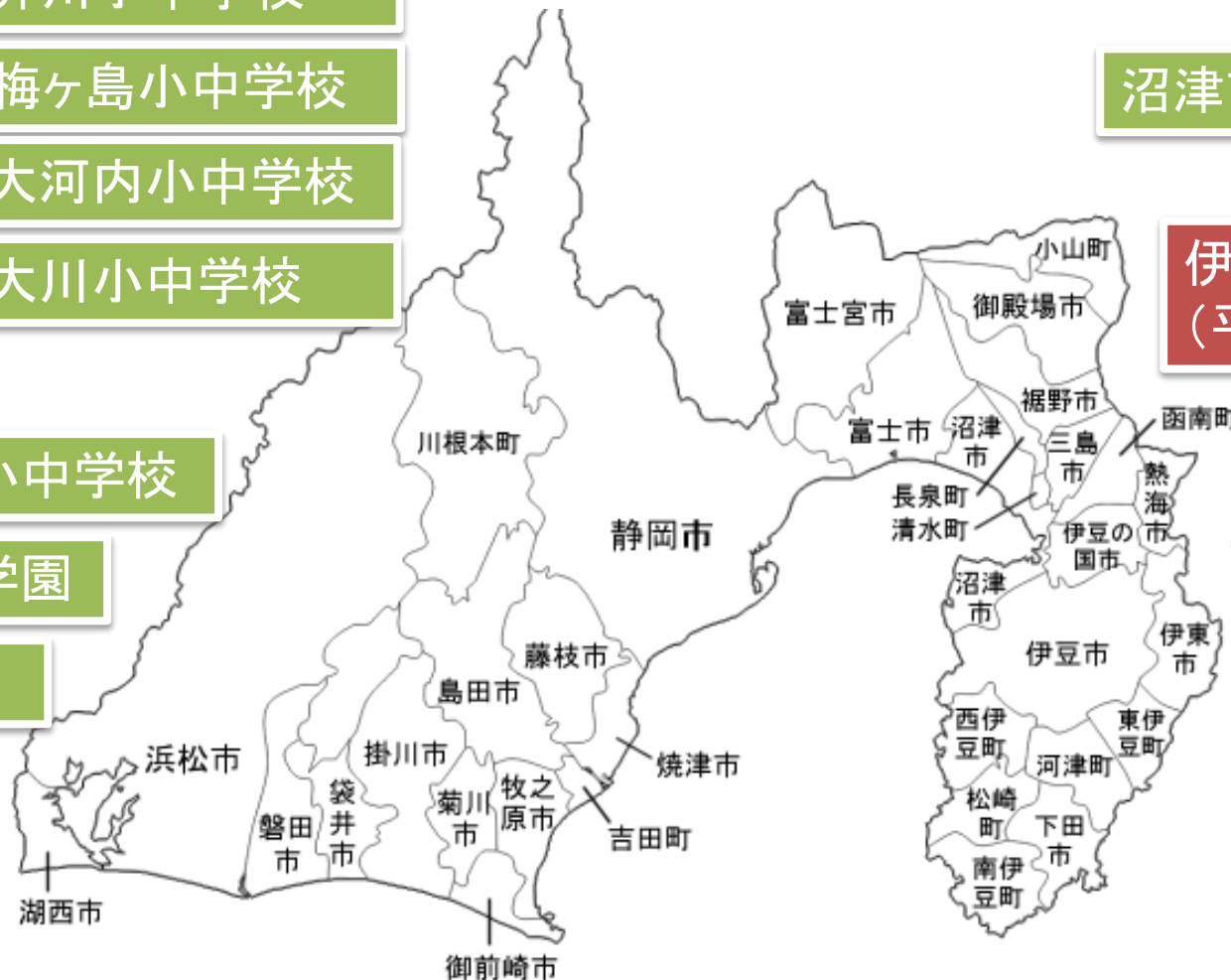
沼津市立静浦小中一貫学校

伊豆市立土肥小中一貫校
(平成30年4月開校:義務教育学校)

浜松市立引佐北部小中学校

浜松市立浜松中部学園

浜松市立庄内学園



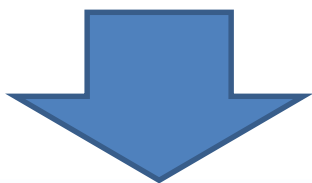
近隣市の磐田市や袋井市、湖西市などでも小中一貫教育を推進しています。

5 これからに向けて

新たな学園・学校づくりに向けて

子どもたちが多様な考えに触れ、協力し合い、切磋琢磨しながら資質や能力を伸ばしていく教育活動

子どもたちにとって最適な教育を行う環境を備えた魅力ある学校



新たな学園づくり地域検討委員会



5 これからに向けて

新たな学園・学校づくりに向けて

第1回 新たな学園づくり地域検討委員会開催

○原野谷学園 平成29年12月11日

○城東学園 平成29年12月12日

第1回 新たな学園づくり地域意見交換会

○原野谷学園 平成30年1月17日

○城東学園 平成30年1月19日

地域
検討委員会

情報共有

地域
意見交換会

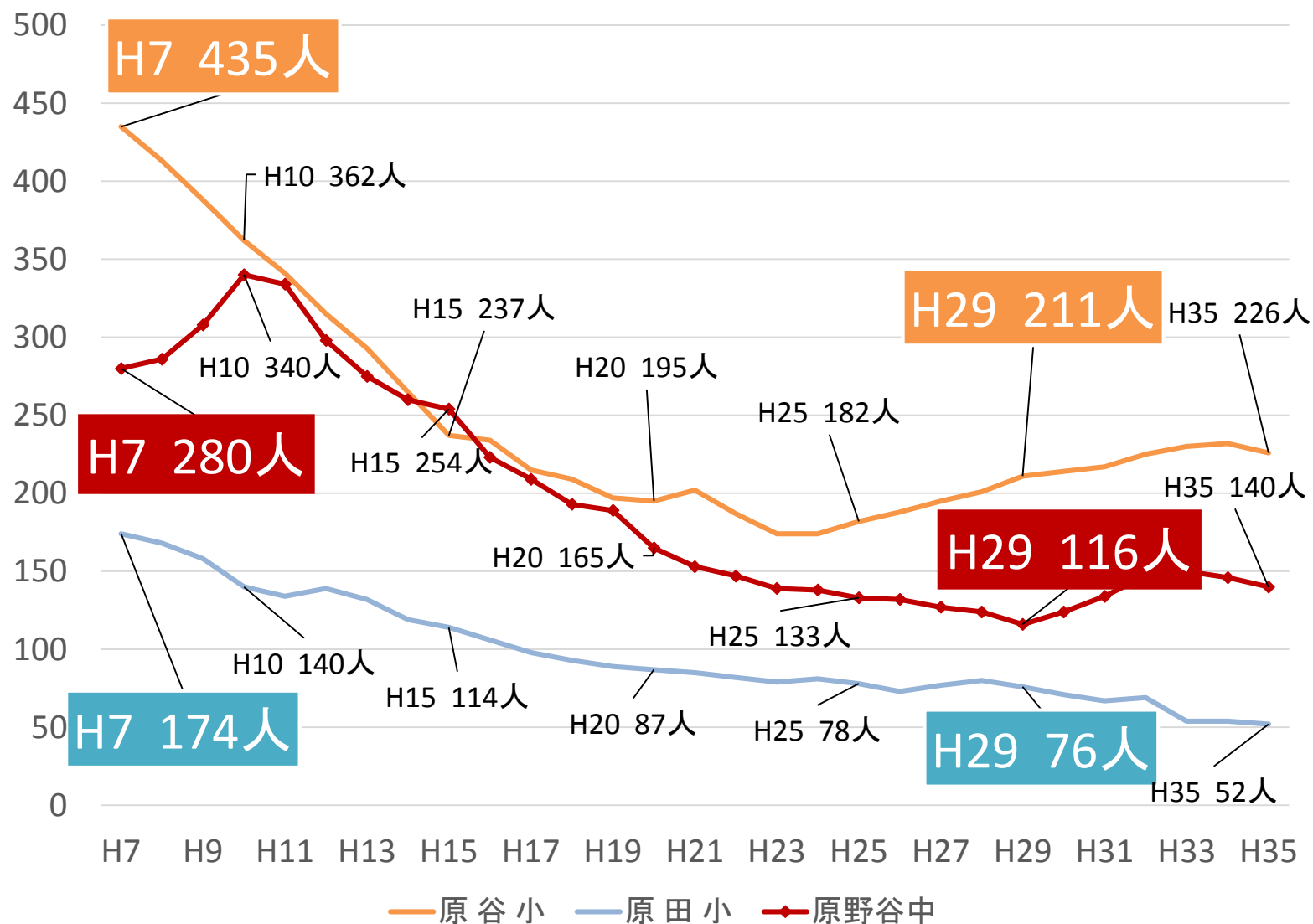


5 これからに向けて（会議予定） ※進捗状況によって変更する場合があります。

会議名	原野谷学園	城東学園
第1回地域検討委員会	平成29年12月11日	平成29年12月12日
第1回地域意見交換会	平成30年1月17日	平成30年1月19日
第2回地域検討委員会	平成30年1月29日	平成30年1月31日
第3回地域検討委員会	平成30年2月14日	平成30年2月20日
第4回地域検討委員会	平成30年3月14日	平成30年3月16日
第2回地域意見交換会	平成30年3月下旬	平成30年3月下旬
第5回地域検討委員会	平成30年4月下旬	平成30年4月下旬
第6回地域検討委員会	平成30年5月下旬	平成30年5月下旬
第3回地域意見交換会	平成30年6月	平成30年6月
第7回地域検討委員会	平成30年7月	平成30年7月
第8回地域検討委員会	平成30年9月	平成30年9月
第9回地域検討委員会	平成30年10月	平成30年10月

2 小中一貫教育が求められる背景

原野谷学園 児童生徒数の推移(実数値による)



平成7年度(1995年)と
平成29年度(2017年)を比較すると

原谷小
224人減(51%減)

原田小
98人減(56%減)

原野谷中
164人減(59%減)

